



琴崎宮

平成二十九年

第二号

琴崎八幡宮

宮司 白石 正典

卷頭言



さて当宮では、念願のお神札・お守り授与所の建設をすすめて参りましたが、この度目出度く竣工完遂を迎えることができました。これも偏に氏子崇敬者各位の深い信仰心と赤誠の賜と洵に慶ばしく衷心より感謝申し上げます。

また明年三月二十七日（旧暦の初午）には、明治元年京都の伏見稻荷大社より御勅請された琴崎稻荷神社が御鎮座百五十年を迎えます。記念事業と致しましては、日展審査員などを務められる田畠功氏による「親子なでぎつね」裏面

本殿と夫婦小賀玉

孚（まこと）

白石 正典

宮司

琴崎八幡宮崇敬会

※琴崎八幡宮では随时、崇敬奉賛会々員を募集しております。

安政五年（西暦一八五八年）に奉納された琴崎八幡宮の手水鉢の素晴らしいは他に類を見ない。特に太く、深く刻まれた「有孚必亨」（まことあらばかならずとおる）の文字は、幕末の混沌とした世相にあっても先人達が如何に敬神崇祖、報恩感謝の念が厚かつたかが偲ばれる。

こんこんと湧き出る、この「孚」（まこと）の手水鉢で手を洗い、口をすすぎ、身も心も洗い清め、罪や穢れなどを流し去り、清い上にも清めて神前に額づくりとき「孚」（至誠）は神に通じるのである。

敬神崇祖は神国日本の伝統的美風であり、その中から健全で平和な日本の将来を考える多くの手がかりが得られることを確信するものである。

◎ 本会は琴崎八幡宮を崇敬し神徳を挙げ家庭をととのえ会員相互の親睦を図り神社神道隆昌発展を期する目的とする。

人又は団体を会員とする。

会員は、次の三種類とする。

1 個人会員 年会費一万円を納付する
個人

2 家族会員 年会費二万円を納付する
個人又は家族

3 法人会員 年会費三万円を納付する
団体又は法人

会員の待遇に関しては、先の通り定める。

◎ 新年年頭祈願祭斎行及び特別神授品の授与。

◎ 每月一日月頭祭・十五日月次祭に会員の家内安全、繁栄を祈念する。

◎ 各神事の案内及び神授品の授与

◎ 研修会や研修旅行（優待）等行事の案内をする。

目に見えぬ神の心に通うこそ
人の心のまことなりけり

明治天皇御製



ご入会を希望される方は琴崎八幡宮崇敬会事務局まで
ご連絡ください TEL (〇八三六) 二二一〇〇〇八

祭典記錄

夏越大祓式

真夏の照り付けの太陽のもと平成二十九年八月一日恒例の夏越大祓式が多く参拝者を迎えて賑やかに斎行されました。この大祓式はムカラ入

間が生きてゆくなかで知らず知らずのうちに犯してしまった罪、触れてしまった穢れを祓い清め、茅の輪をくぐることにより心身ともに元気であるよう大神様にお守りいただく神事です。

全国津々浦々の神社にあつては概ね六月三十日に斎行されますが、当宮は昔より八月一日に斎行される慣例となつております。

大祓式は半年ごとに(冬は十二月三十一日)斎行されますが茅の輪を作成し設置するのは夏越大祓式のみとなります。年に



大勢の総代の皆様にお集まりいただき秋本責任役員の陣頭指揮のもと、まず茅の輪の作成、その後

この紙面にて感謝申し上げる次第でございます。

一度の輪くぐりを楽しみにして下さる方もおられます。また、この神事を支えて下さいるのは三年前から茅萱の栽培に取

渡しするのですが、皆様晴れやかな笑顔でお受け取りいただき、私どもも良い神事が斎行出来たこと大変嬉しく思うひと時でございました。一般参加の皆様がくぐり終わる頃、琴崎保育園の園児たちが軽やかに茅の輪をくぐり一層賑やかな神事となりました。

設置の運びとなりました。当日は青々として美しい茅の輪を前にして午前土時より神事が始まりました。日が高くなるにつれて暑さも増して皆さま額に汗をかきつつも境内に響き渡る大祓詞に耳を傾け切麻・塩湯で身を清め人形代により罪・穢れを拭い去り身も心も清々しく茅の輪をくぐつていかかりました。また御神授品として小さな茅の輪をお

秋季大祭

当日は、ご来賓の皆様を始め、琴崎八幡宮総代会、崇敬会、皇道会の多くの方々のご参列を賜りました。

鮎やかな秋晴れのなか
十月十五日午前十一時から秋季大祭本殿祭が斎行されました。年間を通して大中小と様々な恒例祭典がある中で秋季大祭は特に盛大に斎行される祭典です。

祭典式次第に則り厳粛
のうちに斎行され宮司の
祝詞の中では皇室の弥栄
と国家の繁栄をまたその
年の五穀豊穰に感謝し氏
子・崇敬者の幸せが祈念
されました。その後、長
陽雅楽会の舞姫による浦
安の舞が奉奏されました
宮司に引き続きご参列の
皆様一人ひとりが誠心を
込めて玉串を奉奠し思い

思ひに静かに祈りを捧げました。



御神幸祭

十月十五日（土）の秋
季大祭本殿祭に引き続き
翌十六日（日）御神幸祭
が斎行されました。

毎年、この御神幸祭は十月十五日の本殿祭斎行週の日曜日に斎行される慣例で今回は曜日の関係で二祭典が連続する事となりました。

一年に一度神様が御神輿に乗られて御旅所で直接氏子の生活をご覧になる神事を御神幸祭と言います。

琴崎八幡宮の御旅所は正面の石段を降りて百mばかり南に下つた小高い丘の上にあります。毎年参道を下りここまで三基の本神輿を始め女神輿、子供神輿など計七基の御神輿の渡御が行われます。



しかしながら当日はいにくの荒天に見舞われ止む無く御神輿の渡御を中止とせざるを得ず御神幸祭御旅所の祭典も拝殿内で斎行されました。当

年は晴れ間が出たため御神輿を参道まで出してお練りを行いました。

例年とは違った御神幸祭となりましたが盛大の内に執り納めることができます。これは偏に大神様の御神徳によるものと有難くただただ極みに入るばかりでした。

琴崎八幡宮では毎年二十数万人の三ヶ日参拝者を想定し、七百種類を超える御守等の授与品、御祈願の神授品、境内設備等の準備、五十名を超える巫女助勤の採用からシフトやマニュアル作成、破魔矢、熊手等の縁起物の仕分けや陳列方法の計画、補給方法の効率化を図る在庫管理の計画と実行等々、数え上げれば枚挙にいとまがない準備がござります。もちろん正月は待ってくれませんので通常通りの御祈願や社務を処理しながら大晦日までに全ての準備を済ませなくてはなりません。

毎年のことながら十二月は文字通りの師走となります。しかしながら年末準備も何とか間に合い準

神社に於ける正月といふものは七五三を過ぎた頃から始まります。いわゆる正月準備の始まりです。

琴崎八幡宮では毎年二十数万人の三ヶ日参拝者を想定し、七百種類を超える御守等の授与品、御祈願の神授品、境内設備等の準備、五十名を超える巫女助勤の採用からシ

フトやマニュアル作成、破魔矢、熊手等の縁起物の仕分けや陳列方法の計画、補給方法の効率化を図る在庫管理の計画と実行等々、数え上げれば枚挙にいとまがない準備がござります。もちろん正月は待ってくれませんので通常通りの御祈願や社務を処理しながら大晦日までに全ての準備を済ませなくてはなりません。

毎年のことながら十二月は文字通りの師走となります。しかしながら年末準備も何とか間に合い准



太く長い参拝者の行列ができることになります。大変有難いことであり、神社に人が多く集まれば神様も益々神威を發揮するとも云われております。深夜を通して鈴の音は絶えることなく、初陽は昇り午前十時を過ぎた辺りからまた太く長い行列ができ始め、おみくじの大吉に歓喜される方や、大吉以外で悔しがる方、御守の種類に驚かれる方々、御初夢くじの当選に鳴る鈴の音や湧き上がる歓声等、とても賑やかに好天にも恵まれ平成二十九年の正月も多忙ながらも清々しく、賑やかで素晴らしい三ヶ日となりました。

節分祭

去る二月三日、境内の白梅も開き始め春を感じさせる陽気と晴天の中、節分祭が多数の氏子・崇敬者参集のもと盛大に執り行われました。

当日は午前九時半より本殿に於ける節分祭が斎



行され氏子・崇敬者の平安が祈念されました。またこの祭典の中では「忌火の儀」という行事が行われ、この後行われる古札焼納祭で使用される御神火の種火を神職が火打ち石を力チカチと鳴らし火切りしながら御神前にて採火しました。次に演舞場前にうず高く積まれた古札の前に移動して点火式が斎行されました。神事の後、松明にて忌火を点火すると瞬く間に炎は天を焦がすかの如く燃え上りました。

針祭り

琴崎八幡宮では節分祭に合わせて毎年星祭の事前申し込みを承つております。一月三十一日までにお申し込みいただきまとご家族様のお名前が祈願札に入ります。詳しくは社務所までお問合せ下さい。

寒風吹きすさぶ去る二月八日、針祭りが本殿裏手の針塚前で斎行されま

氏子・崇敬者は各自の家にて一年間お祀りした古守札また正月飾りなどを持ち寄り淨火の熱を身体に当て一年の家内安全・無病息災を祈念しました。尚、当日は計三回の豆撒きが本殿東側（稻荷神社前）にて執り行われ福豆を拾う人々で多いに賑わいました。また神殿に於いては終日、星祭、厄除け、八方除けなどの御祈願祭が斎行され太鼓、笛の音が鳴りやむ事がない程でした。

この針塚は昭和五十九年に宇部和裁専門学校が建立した石碑で毎年二月八日に針祭りが斎行されきました。針祭りとは一般的に針供養と呼ばれて、折れ、曲がり、錆びなどによつて使えなくなつた縫い針を供養し神社に納める行事をいいます。昔から豆腐や蒟蒻のよう柔らかいものに刺したりすることで供養し裁縫の上達を祈りました。

琴崎八幡宮では節分祭に合わせて毎年星祭の事前申し込みを承つております。一月三十一日までにお申し込みいただきまとご家族様のお名前が

福社法人セルフ南風のソーランゲ部員の皆様が参列し琴崎保育園の年中、年長児約七十人も伝統行事を見学しました。

特大千支絵馬奉納奉告祭

去年の十二月三日、師走の気候とは思えないほど暖かい日差しの中、石段下（大鳥居横）にて新年特大千支絵馬奉納奉告祭並びに除幕式が斎行されま

ました。
この特大絵馬の題材は八幡神の誕生を喜ぶ神功

皇后と武内宿禰であり地元宇部市立上宇部中学校の美術部の生徒様方に製



作を依頼し除幕の運びとなりました。

当日は責任役員、総代、

上宇部中学校の師井浩二

校長を始め顧問の先生方、

そして製作を担当した美

術部の生徒様方に参列を

賜り奉納奉告祭に統いて

除幕式が執り行われまし

た。除幕式では宮司より

感謝状並びに記念品の贈

呈続いて除幕に移り関係

者が紅白の手綱を引き白

布を取ると一斉に大きな

感嘆の声が周囲に響き渡

りました。

この特大絵馬は琴崎八

幡宮の顔である正面大鳥

居横、国道四九〇号線沿

いに設置され参拝者は元

より道行く人々により広

く愛されております。

旧初午祭

三月十日、うららかな
春の日差しの中で末社、
琴崎稻荷神社の例祭が多
数の参列を賜り厳肅に斎
行されました。琴崎稻荷
神社では御鎮座以来、毎



来たる平成三十年三月

た。宮司は國家の繁栄と安寧を祈念する旨の祝詞を奏上し、長陽雅楽会が奏

人ひとりそれぞれに願い

をこめて玉串を捧げまし

七五三参り

例年のごとく九月の下旬より少しづつ七五三参

りが始まり十一月十五日前後の土日をピークとし

て祝いの晴れ着をきた子供たちが賑やかに境内を埋め尽くしました。また

我が子の晴れ姿をカメラに収めようと必死にシャッターを押し続ける親御さんの姿がとても印象的でした。

当宮は春は桜、秋は紅葉の名所として宇部市民

二十七日には琴崎稻荷神社御鎮座百五十年式年大祭が斎行されます。それに伴い先日、実行委員会が発足されました。記念事業及び詳細は別紙に記載致します。つきましては稻荷大神様への偏に稻荷大神様の御神徳によるものと感謝しております。

宮司は国家の繁栄と安寧を祈念する旨の祝詞を奏上し、長陽雅楽会が奏人ひとりそれぞれに願いをこめて玉串を捧げました。

この記念すべき百五十年の佳節を寿ぐ記念事業にぜひ御奉賛の程宜しくお願い申し上げます。



尚、七五三とはそれぞれ数え年で三歳の男の子、七歳の女の子が十一月十五日に氏神様にお参りし健やかな成長を祈願する祭事です。

琴崎八幡宮の七五三神授品にはお守り、千歳飴の他に五種類の文具、玩具などが入れられております。

尚、七五三とはそれぞ

れ数え年で三歳の男の子、

七歳の女の子が十一月十五日に氏神様にお参りし健やかな成長を祈願する祭事です。

この紀元節祭ならびに奉祝大会は毎年二月十一日の建国記念の日に行われており、どなたでもご参列・ご参加していただきま

紀元節

二月十一日、折しも日本

列島が強烈な寒波に見舞われたこの日、若干の積

雪と小雪舞い散る中、午前九時半から本殿にて紀

元節祭が厳かに斎行されました。宮司の祝詞に引き続き全員で奈良の権原

神宮を遥拝し悠久なる神武肇国の歴史を偲びつつ

皇室の弥栄と国家の更なる繁栄を祈念致しました。

尚、祭典後午前十時より参集殿に於いて宇部市

日の丸會・日本會議山口

宇部支部主催による奉祝

大会が行われました。そ

の中で地元紙、宇部日報

の紙面で「古里歴史よも

やま話」を執筆中の内田

鉄平氏に「美しき日本の

為に・郷土愛」と題して

記念講演していただきま

した。

く事が可能で。國を愛する気持ちを同じくする皆さま多数のご参集お待ち致しております。



臨時巫女 説明会

十二月二十五日、十四時より参集殿に於いておよそ六〇名の高校生・大學生が集まる中、正月臨時巫女の説明会が行われました。

当日は担当の藤野勝也・白石貴浩両権禰宜より巫女の奉務心得を記した手引きをもとに指導が行われました。参拝者との応対の仕方は元より、様々な種類の守札の説明がされました。説明会終了後は全員で境内をまわり建物の名称や場所の確認などをなされました。

臨時巫女は概ね十二月三十一日から一月九日まで

での間、交代勤務で授与所・社務所・本殿と各所に配置され参拝者の応対に務めました。



安産祈願 戌の日表

9月8日(金)・20日(水)
10月2日(月)・14日(土)・26日(木)
11月7日(火)・19日(日)
12月1日(金)・13日(水)・25日(月)
平成30年
1月6日(土)・18日(木)・30日(火)
2月11日(日祝)・23日(金)
3月7日(水)・19日(月)・31日(土)
4月12日(木)・24日(火)
5月6日(日)・18日(金)・30日(水)
6月11日(月)・23日(土)
7月5日(木)・17日(火)・29日(日)
8月10日(金)・22日(水)
9月3日(月)・15日(土)・27日(木)
10月9日(火)・21日(日)
11月2日(金)・14日(水)・26日(月)
12月8日(土)・20日(木)

平成30年 厄年 年齢表						
男性の厄年 生まれ年(数え年)						
25歳		42歳			61歳	
前厄	本厄	後厄	前厄	大厄	後厄	前厄
平成7年	平成6年	平成5年	昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和34年
女性の厄年 生まれ年(数え年)						
19歳		33歳			37歳	
前厄	本厄	後厄	前厄	大厄	後厄	前厄
平成13年	平成12年	平成11年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和58年
						昭和57年
						昭和56年

「祖先の神があつてこそ生まれ出た自分、その自分もやがては祖先の神のもとへと帰っていくのだ。」この歌は日本人の死生観を明確に表現しています。神道式における祖靈祭祀は仏教渡来以前の慰靈の形を色濃く残しています。仏式では仏徳を讃える「仏事」が儀式の趣旨であるのに対し神道式は故人の御靈をお慰めすることに重きをおいています。神道式は古事記・日本書紀にも皇祖の御靈を祀った例が見られます。現在でも宮中では歴代天皇及び皇族の靈を祀る行事（春季皇靈祭・秋季皇靈祭）が厳肅に斎行されています。琴崎八幡宮に於いても各家の祖靈様方が心穏やかに鎮まられるように誠を捧げ丁重かつ厳肅に靈祭お仕え致します。



ひの木に生れ出でにし盈人は
神より出でて神に入るなり
中西 直方

琴崎八幡宮には神道式で祖靈様をお祀りする家(神道家)で作る組織、皇道会があります。今後、ご家庭の祖靈祭祀を神道式で斎行を希望される方、また他宗からの改宗をお考えの方は社務所までご相談ください。

琴崎八幡宮皇道会

新授与所竣工



五月十九日午前十一時、雲一つない快晴のもと新授与所の竣工奉告祭が盛大に斎行されました。

当宮では実に七七〇種類もの御守を頒布致しております。最近では近郷は元より遠方からも観光バスが往来し多くの参拝客に御守を頒布致しております。右の状況を鑑みたとき、年々従来の授与所を始め当宮付属の諸施設では多数の御守の授与に支障をきたし、かつ大勢の参拝客にも対応出来なくなってきたのが実情であります。

そこで設計を現代神社建築設計の第一人者で東京銀座の種村強建築設計に依頼し、施工を地元の英工建設に委ね旧来の授与所を新しい時代の神社運営に適したかたちに増改築することと致しました。約四年前より計画を練り始め今年二月下旬より工事に取り掛かり、この度めでたく竣工するに至った次第です。神社の景観を損なうことなく、斬新なデザインの中に古き良き伝統的技法の凝らされたこの新授与所、お参りの際は是非お立ち寄りいただきたく存じます。



「ご家庭に神棚は

お祀りされておりますか？」



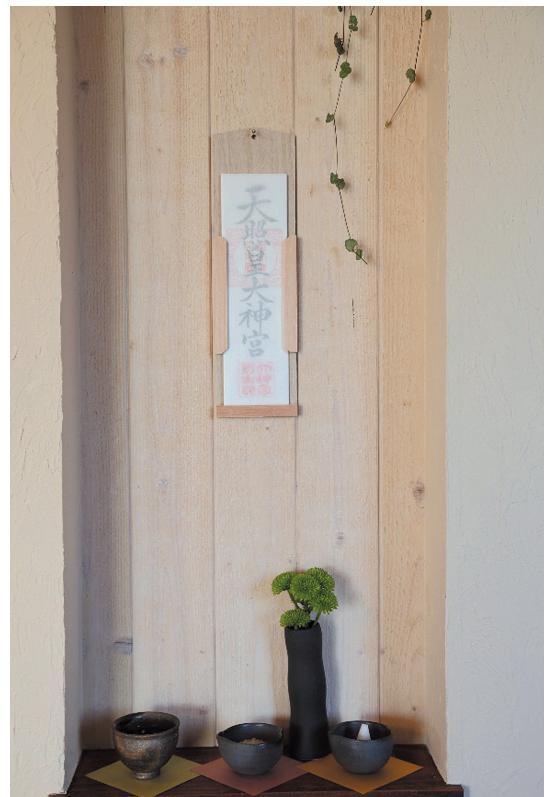
なぜ、神棚を祀る必要があるのでしょうか。ご存知の通り、神棚には、伊勢の神宮の御札であります「神宮大麻」と地域の守り神であります「氏神神社の御札」をお祀りするのが習わしとなつております。毎日、静かに祈りを捧げること、現代においてこの時間がどれだけ必要なのか。ここで、神棚を祀る意義についてお話をさせていただきます。

・神棚を祀る意義

- 一・謙虚な心を養う
- 二・感謝の気持ちを忘れないで毎日を生きる
- 三・祖先から受け継がれた精神・教訓を忘れず日々自分を戒める
- 四・祈る親の背中を見て子は育つ
- 五・人の目はごまかせても、神様の目はごまかせない

人智の及ばない世界、人の力ではどうしようもできない領域というものは、現代においても存在します。その存在こそ、我々日本人は神様として畏み敬つて参りました。昨今、行き過ぎた個人主義の風潮で、日本人は謙虚な心を忘れてしまったような気さえ致します。ありふれた毎日を当たり前だと思わず、「有り難い」と、日々感謝をしながら生きている人がどれだけいるでしょうか。また、モノにあふれ物質的には豊かになつた日本人は、どこか心が満たされない人が増えていくような感じが致します。そのような人が増えてきたのと、手を合わせることをしなくなつたということに、因果関係があるよう思えてなりません。御先祖や、この国を命懸けで護ってくれた人々に感謝を捧げるとともに、恥ずかしくない生き方をすることが恩返しになるのではないでしようか。そして、この精神を次世代へつないでいく責任が、この時代を生きる我々の役目なのではないかと日々感じております。

昨今は大変慌ただしい時代、大きく世の中は変わり、このままでは誇



り高き日本人の精神は忘れ去られていつてしまうような気がします。今こそ神棚をお祀りし、日本人は原点に帰るべきたと心からそう思っています。

さて、皆様は伊勢の神宮にお参りされたことがありますでしょうか。神宮の神宮大麻奉製所では神宮の職員が毎日潔斎をし、白装束を身にまとい、一体一体丁寧に手作りで神宮大麻が奉製されております。その後、伊勢の神宮で大麻領布始祭を厳粛に執り行い、山口県神社庁、長陽支部、琴崎八幡宮でも、頒布始祭を執り行い、祓いに祓いを重ねて、皆様のお手元に届いているのです。

伊勢の神宮は、全国八万社ある神社の「本宗」（中心のお社）と称され、日本国民の心のふるさとであります。二十年に一度の式年遷宮は、六二回を数え、国家の大事業として日本国民が守り継いできた叡智の結集であります。伊勢の神宮の御札を皆様がご家庭でお祀りすることこそが、この式年遷宮のお力添えにもなるのです。次の式年遷宮は、第六三回、平成四五年です。

これから新年を迎える年末には、新たな神宮大麻と地元の守り神であります氏神様の御札をお受けいただき、新たな気持ちで新年をお迎えすることを推奨いたします。琴崎八幡宮では現代の住宅事情を考慮し、写眞のような神棚も取り扱いさせていただいております。お祀りする形はあくまで「型」であつて、そこにお祀りする心と祈る心があれば、きっと神様はお護りしてくださることと 思います。

最後に、ご家庭にのみならず、会社の事務所、工場やお店などにも、神棚をお祀りされ、向かうところを一つにする、そのような存在として神棚をお祀りしていただければ幸いです。

分からなことがありますれば、分かりやすく説明をさせていただきます。お気軽に連絡をいただければと思います。



琴崎稲荷神社は全国の稲荷神社の総本社である京都の伏見稲荷大社より明治元年（1868年）に御勅請されました。昭和五十二年には社殿改築をし平成三年には御遷座祭を斎行し現在の本社東側に遷座されました。御祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）で穀物・農業・商工業の神様であり、また全ての食物を司り稻の育成を守護する神様でもあり、商売繁盛・家内安全の御利益があるとされています。來たる、平成三十年三月二十七日（旧暦の初午）には、御鎮座百五十年の嘉節をお迎えすることになります。此の意義深き年を迎えるにあたり当宮では記念事業を行い、以て先人達が護り伝えてきた琴崎稲荷神社を次世代へと継承することを責務と考え、先日実行委員会を発足させ左記の通り事業を計画致しました。

就きましては何卒趣旨にご賛同戴き、格別なるご賛同を賜ります様謹んでお願ひ申し上げる次第でございます。

事業期間 平成二十九年一月～平成三十年三月

事業内容 ① 琴崎稲荷神社前に親子なできつねの銅像建立

② 日本庭園造園

③ 社殿前のバリアフリー化

④ なでうさぎの銅像建立

⑤ 琴崎稲荷神社賽銭箱の新設

⑥ その他

総事業費 壱千五百萬円 一口 一万円より 何口でも可

お申込み方法

※現金書留もしくは銀行振込、又は琴崎八幡宮社務所に直接ご納金下さい。

◎銀行振込 山口銀行上宇部支店 店番○三六

口座名義 宗教法人琴崎八幡宮琴崎稲荷神社

式年大祭奉賛会 宮司 白石 正典

（振込手数料は奉賛会負担としております。）

現金書留送付先

〒七五五一〇〇九一 山口県宇部市大字上宇部五七一番地

※ご奉贊戴きました方は、『御奉賛芳名帳』に記帳し御神前にご奉奠申し上げ

御祈願申し上げます。氏子崇敬者の皆様には出費御多端の折、誠に恐縮ではございますが何卒お汲み取りの上ご奉賛賜りますようにお願い申し上げます。

私の八幡さま 2 伊藤 恵子

いつものように八幡様へお参りさせていただく中に、思いもよらず神職さまから、この度の「琴崎宮」への寄稿のお話をいただいた。これまで人様にお見せするような文章を書くのを頼まれたこともなく、お断りしようとも考えたが、せつかく賜ったお話でもあり、これまでの御恩を少しでもお返しできればとの想いからお受けすることにした。そこであらためて毎日参拝し始めた時のことを思い出してみた。

二十五年ほど前、当時はまだ一緒に暮らしていた娘と週一回程度お参りさせていただいていた。その娘が二十年前に結婚を機に三重県へと移ってしまい、八幡様への想いはいつも抱えていたもののお参りの間隔が開くようになつていった。

その様な状況が数年続いていたある大雪の日に仕事に向かう途中、横断歩道を渡りきる直前に滑って転んでしまい右手首を骨折。そのことが原因で仕事も辞め家で休んでいる日々が続いた。更にそれほど間を開けず今度は主人が仕事中に車から滑り落ち背筋を痛め、そのことから神経因性膀胱を患い入院。重ねて腎疾患、糖尿、高血圧と次々に発症し病院の担当医からも重篤な状況であると説明があった。

先の見えない苦しみの中、妹から掛けられた一言。「八幡様は必ず良い方向に導いてくださるから、毎日お参りしてみてはどうか。」との勧めから毎朝、主人の回復と家族の健康をお願いさせていただく様になり早いものでもう七年になる。その御蔭もあり主人は驚異的な回復を果たし七十歳になる今でも定年前と同じように働けるほどの健康な身体を取り戻している。また、娘と息子は偶然にも現在は東京に暮らしている。しかも車で二十分くらいの距離に住み、五人の孫も含め皆健康で幸せで充実した日々を送っている。

人生山あり谷あり、良い時もあれば悪い時もある。我が身が谷底にある時、ともに寄り添つて守り導きご加護をくださった八幡様。往時を偲び今あらためて感謝の想いでいっぱいである。よく人生とはプラスマイナスゼロと聞く。しかしこれまでを振り返りつつ考えてみると八幡様からの御蔭をいただいたこともあり谷の深さより山の頂きの高さの方が大きかったと自信を持つて言える。

夫婦ともに健康であることへの喜びと二人の子供夫婦、五人の孫をはじめ皆が健康で幸せに暮らせていることに感謝し毎朝お参りさせていただいている。これからも一日の始まりは八幡様へのお参りと日々のご加護への感謝から。

清やかな朝の空気の中、感謝一筋に
祈りを捧げる伊藤様ご夫妻



皆様の寄稿を心よりお待ち致します。
寄稿いただけます方は原稿を社務所までお持ちください。

平成二十八年度

御供米奉納者

貳萬圓

廣石 繢
高田 佳幸・裕子

壹萬伍阡圓

椎名 定雄
柏村住美江

才一力

裝置工業(株)

山口銀行上宇部支店

白石高倉商店

西村美智江・友紀子

壹萬圓

鈴木 格

山野あい子
中村秀明

橋本

直喜

東川 康英

ビジネスホテル新川

高山キヨ工

美雪

佐藤 隆子

松永 種生

宮本 隆子

向井 忍・昭順

持田 幸夫

伊藤回生堂

米原 辰夫

(株)西京銀行

(有)新英社印刷所

小川 澄夫

中村 巴美

中村 柚希

伍萬圓

弘中 豊

壹萬圓

四萬圓

石川習字教室

參萬圓

光井 一彦
瀧山健次郎

貳萬圓

兼広 三朗
村田 行生

(有)不二商

白石 家門

タツヤ

水田 充紀

末永整骨医院
小料理 小粹

八阡圓

柏野 仁・英子
岡 盛夫(有)新英社印刷所
(株)伊藤回生堂
(株)西京銀行
米原 辰夫

八阡圓

中村 涼次
松本 勝

七阡圓

貞兼 進

伍阡圓

萬代 美恵

S a l o n d V i V i 村谷 崇

(有)三盛 長野 悟

美藤 勝己

廣石 良子

福島建設(株)

秋本 昌子

安達 政俊

古松 達生

松永 一成

美里 麻庵

向井多津子

板谷 君子

山本 和雄

山本 美代子

林 原田 八木 松下 山本 藤本 西山 山本 藤本 阿部 石原 伊藤 小田 成生

お仏壇とお墓のかんのん堂

伍阡圓

郷中 行夫・京子
嶋田 真子

田部税理士事務所
智照院教会

寺本 満昭
西村ミヨ子

(有)フジアート
吉武 誠
ワイエム証券
岡藤 博
(株)清 内山 智将
(敬称略)

伍阡圓

皆様から供進されました御供
米は毎朝 朝神樂 にてお供え
され家内安全・事業繁榮・無病
息災等が祈念されております。
御供米料は五千円より承って
おります。社頭掲示板には一万
円以上の奉納者のみ掲示させて
いただきます。詳しくは社務所
までお問い合わせください。





古来の「神前結婚式」
略式の「結婚奉告祭」
御初穂料七万円
御初穂料二万円



伝統ある八幡宮で 日本ならではの結婚式を

新郎新婦が一心同体となり、偕老同穴の契りを結ぶ人生で最も慶祝すべき儀礼。神聖な夫婦の契りを琴崎八幡宮の大前で結び固めてみませんか？

お申込み、お問合せは社務所まで



〒755-0091
山口県宇部市上宇部
571番地
琴崎八幡宮社務所
TEL (0836) 21-0008
FAX (0336) 31-9618
URL <http://kotozaki.com>
発行人 白石 正典
編集人 松永 賢治
印刷 刈谷印刷株式会社
題字 石川習字教室
石川 華泉

一月一日	零時	歳旦祭
一月三日	十時	元始祭
二月節分	九時半	節分祭
二月八日	十時	針祭
二月十一日	九時半	紀元節祭
旧暦初午の日	十一時	稻荷神社例祭
春分の日	十一時半	春季祖靈祭
四月十五日	十二時	春季大祭
全	十三時	献茶式
六月十五日	十四時	宮地嶽神社例祭
八月一日	十五時	夏越大祓式
九月一日	十六時	藥神社例祭
秋分の日	十七時半	秋季祖靈祭
十月十五日	十八時	秋季大祭
次日の曜日	十九時	御神幸祭
十一月上旬	二十時	新嘗祭
十二月二十三日	二十一時半	天長祭
十二月三十一日	二十二時	大祓式

年間祭事日程

編集後記

神社にとって榎は必要不可欠な植物である。一部寒冷地に於いて榎が育たずヒサカキ等で代用している地域があるにせよ、およそ榎は神社に植栽されている。

琴崎八幡宮は周囲を山林に囲まれているため多数の榎が植栽されていいる。しかしながら近年、多くの榎がスズ病に罹り神事に使えそうな榎の本数が減少してきた。神社の十年先、二十年先、次の神職たちが困らぬ様に先日九十本の榎の苗木を新たに植えた次第である。残念ながら中には上手く根付かなかつた株もあるが、多くは瑞々しい若葉を芽吹かせながら元気に育っている。

なぜ故に「神の木」とかいて「サカキ」と読むのだろうか。時には賢木あるいは栄木と書く場合もあるらしい。榎の成長は早く新緑の季節には枝いっぱいに新芽を出す。また葉の持つ深緑は何とも言えない瑞々しく氣品のある色合いである。いにしえの人々は榎の持つ生命力の強さ秀麗なる美しさに言い知れぬ神秘性を感じ「神の木」と位置づけたのではないか。

我々人間も榎の如く生命力に満ち麗しく人生を歩んで行きたいと思ふ次第である。自然の営みの中に神明の大御心が感じとれるような気がしないだろか。

松永 賢治